

正二くんの時計

小川未明

青空文庫

正二くんは時計がほしかったので、これまでいくたびもお父さんや、お母さんに、買
つてくださいと頼んだけれども、そのたびに、

「中学へ上がるときに買ってあげます。いまのうちはいりません。」というご返事
でした。

戦争がはじまってから、時計は、もう外国からこなくなれば、国内でも造らな
なつたという話を聞くと、正二くんは、

「売っているうちに、早く買ってもらいたいものだ。」と思つたのです。それで、お父
さんに向かつて、またお頼みしたのでした。すると、

「なくなることはない。高くなつても、お前が中学へ上がるときには買つてやるから、
心配しなくていい。」と、お父さんは、いわれたのでした。

学校では、小谷も、安田も、森も、みんな時計を持つていました。いままで持つてい
なかつた高橋も、このごろ買つてもらつたといつていました。正二くんは、みんなが
上着のそでをちよつとまくつて時計を見るときのようすが、目についていてうらやましく
なりました。時計があると徒競走をしても、タイムが取れるし、学校へいくバスの中

でも時計があれば、安心できると思つたのです。正二くんは、いつか兄さんがいい時計を買いだといつていたことを思い出して、兄さんのところへいきましました。

「兄さん、いつ時計をかうの。」

「まだわからない。」

「買ったなら、兄さんの時計を僕におくれよ。」といいました。

「ああ、やるけれど、一年先だか、二年先だかわからないぞ。」

「えつ、一年も、二年も……。」

正二くんは、目を大きくみはつたのです。

「うちに、お父さんの前に持つていた、大きな時計があつたろう。あれをもらうさ。」と、兄さんがいいました。

それは、大型の、ひもで下げる昔ふうのものでした。商店か、古道具屋の店頭でもなければ、見られぬものです。

「やだ、あんな昔のものなんか。」と、さすがに正二くんも、おかしくなつて、笑いました。

「ばか、あれは、機械がいいのだ。この時計なんかとくらべものにならぬほど正確なん

だ。」と、兄^{にい}さんは、自分^{じぶん}の時計^{とけい}をながめました。

「じゃ、兄^{にい}さん、あれをおもらいよ。」

「あんなの下^さげて歩^{ある}けるか。」

これを聞^きくと、正^{しょうじ}二くんは、お父^{とう}さんのもとへ飛^とんでいきました。

「お父^{とう}さん、僕^{ぼく}に、大^{おお}きな時計^{とけい}をおくれよ。」

「あれは、おまえなどの持^もつ時計^{とけい}ではない。中^{ちゅうがく}学^{がく}へ上^あがるとき、いい腕^{うでどけい}時計^{とけい}を買^かつ

てやるから。」

「僕^{ぼく}、待^まちきれないんだよ、だから、あの大^{おお}きいのをくれてもいいでしょう。」

お父^{とう}さんは、だまつていられました。

正^{しょうじ}二くんは、お父^{とう}さんのへやへ入^{はい}って、方^{ほう}々^{ぼう}のひきだしを開^あけて、大^{おお}きな銀^{ぎん}時計^{とけい}

をさがしました。

やっとそれを見^みつけると、お父^{とう}さんの前^{まえ}に持^もつてきて、

「もらつていいでしょう。」といいました。

「それをやる代^かわりに、もうほかのを買^かつてやらないぞ。」

「ああ、いいです。」

正二くんは、時計のひもをバンドに結んで、外へ出かけました。友だちに見せるつもりです。

「正ちゃんのは、すばらしく大きいんだね。」と、秀ちゃんが、いいました。

「これは、下げるんだね、昔の時計だろう。」と、賢吉くんが、いいました。

「正ちゃんの時計の音は、ここまできこえる。」と、秀ちゃんが、すこし離れたところに立っていて、いいました。

正二は、こんな時計を学校へ持っていったら、きっと小谷や、森に笑われるだろうと思ったので、お母さんに、預かってもらうことにしました。

「しかたがないから、四月まで待とうか、それともお姉さんがきたら頼んでみようか。」と、正二くんは、いろいろ考えたのでした。

正二の姉さんは、お嫁にいていました。けれど、末の弟の正二くんをかわいがっていたのです。

ある日、久しぶりで家へきたお姉さんは、正二くんから、時計を買ってくれとせがまれました。

「そんなにほしいのなら、買ってあげます。そのかわり、いい成績で卒業なさいね

。「と、お姉^{ねえ}さんは、町^{まち}へいつて、正^{しょうじ}二^にくん^に、学生^{がくせい}向^むきの腕^{うで}時^{どけい}計^{けい}を買^かつてくださ
いました。新^{しん}型^{がた}で、い^いかにも機^き械^{かい}が精^{せい}巧^{こう}そう^{そう}です。正^{しょうじ}二^には、それ^{それ}を腕^{うで}にはめて、喜^{よろこ}
んで飛^とびまわりました。

「どれ、お見^みせ。僕^{ぼく}の^{より}も、い^いよう^だぞ。」と、兄^{にい}さん^{まで}が、い^いつ^たので、正^{しょうじ}二^に
くんは、得^{とく}意^いで^{した}。

翌^{よく}日^{じつ}、さ^さつそ^そくそ^その腕^{うで}時^{どけい}計^{けい}を^{して}、学^が校^{っこう}へ^いき^まし^た。

「い^いいの^を君^{きみ}買^かつ^たね。」と、い^いち^いば^んに^それ^を見^みつ^けて、駆^かけ^よ寄^よつ^たの^は小^お谷^{たに}で^あり^ま
し^た。

「僕^{ぼく}の^と、同^{おな}じ^{よう}だ^けど、ち^ちつと^ちが^つて^いる^ね。」と、小^お谷^{たに}は、自^じ分^{ぶん}の^腕時^{どけい}計^{けい}と^見
くら^べて^いま^した[。]

「は^はあ、君^{きみ}の^と三^{さん}分^{ぶん}ち^がつ^てい^るが、ど^どつ^ちが^た正^{ただ}し^いん^だか^な。」と、正^{しょうじ}二^にく^んが、
い^いま^した[。]

「それ^{それ}は、僕^{ぼく}の^が正^{ただ}し^いん^だと^も、昨^{ゆう}夜^べラ^ジオ^に合^あわ^した^のだ^もの。」と、小^お谷^{たに}が、答^{こた}
え^えま^した[。]

「僕^{ぼく}も^あ合^あわ^した^んだ^よ。」

二人は、そろって教員室の前へいつて、時計を見ると、どちらもちがっていました。それでいずれが正しいのか、わかりませんでした。

正二くんは、学校で撃剣をして、家へ帰りました。見ると、時計が、止まっています。

「おかしいな。お母さん、僕の時計が止まっています。撃剣をすると止まるんですか」

「そんなことはありません。ねじがゆるんだのでしょうか。」

「あ、そうか。」

正二くんは、ねじをかけて、外へ遊びに出ました。そして、友だちとボールを投げていたのです。ふと、時計を見ると、また針が止まっていました。

「だめだ、こんな時計は、見かけだけで……。」と、正二くんは、なにかしらん腹立たしくなりました。家へ帰って、お母さんに告げると、

「買ったばかりですから、店へ持っていったなおさせてあげます。」と、おっしゃいました。

正二くんは、見たところ精巧そうな時計が、ちつとも精巧でないので、がっかり

してしまいました。

学校へいつて、このことを友だちに話すと、

「僕の時計も、すこし運動すると止まるんだよ。」と、小谷が、いいました。

夕ご飯のときに、その話が出ると、兄さんは、笑って、

「役にも立たぬものを、体裁だけでごまかすなんて、ほんとうにわるいことだな。」と、いわれたのでした。

「なんのための時計だか、わかりませんね。」と、正二が、いいました。

「いままでのような世の中では、しかたがない。見かけはどんなでも、ほんとうに役に立つものを造らなければ、なんの値打ちもないのだ。人間も同じことだぞ。」と、お父さんが、おっしゃいました。

それは、体操の時間でした。先生が、ポケットから、大きな時計を出して、時間を見ていられました。正二は、自分の大きな時計によく似ているなと思って、見ていました。

「先生の時計は、大きいなあ。」と、笑ったものがあります。

先生は、こちらを向いて、

「君^{きみ}たちの時計^{とけい}は、見^みかけばかりで、すこし運動^{うんどう}すると止^とまるのだろう。形^{かたち}などはどうでもいい。機^き械^{かい}は、このほうがずっといいんだ。」と、おっしゃいました。

つ
その明^あくる日^ひから、正^{しょうじ}二くんは、お母^{かあ}さんにあずけてあつた時計^{とけい}を下^さげて、平^{へい}気^きで学^が校^{こう}へいくようになりました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 12」講談社

1977（昭和52）年10月10日第1刷発行

1982（昭和57）年9月10日第5刷発行

底本の親本：「赤土へ来る子供たち」文昭社

1940（昭和15）年8月

初出：「台湾日日新報 夕刊」

1940（昭和15）年2月8日、9日

※表題は底本では、「正二『しょうじ』くんの時計『とけい』』となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2017年9月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られ

ました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

正二くんの時計

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>